

2025年 9月吉日

全国大会出場に於ける御礼状

時下、皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度の福岡ウイングスの第19回全日本中学野球選手権大会ジャイアンツカップ
出場に際しましては、皆様方から多大なご厚志と温かいご声援を賜り、誠に有難う
ございました。

福岡ウイングスは準々決勝まで勝ち進み、全国ベスト8 という結果を収めることが
できました。

入団当初より目指していました当大会で大きな感動を味わうことができましたのも
皆様方のご支援のおかげであり、心より感謝いたします。

福岡ウイングスにおきましては第39期は全日程を終了し、第40期が新チームとし
て始動をはじめたところです。

皆様方から頂いたご厚志と温かいご声援に応えるためにも、今後の大会での勝利に
向けて取り組んでいます。

今後ともいっそうのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

球団代表	西尾 健一
父母会長	阿蘇 淳

第19回ジャイアンツカップ

中学硬式野球の日本一を決める「第19回全日本中学野球選手権大会 ジャイアンツカップ」が17日、東京・トナリで開かれた。フレッシュリーグ九州硬式少年野球協会九州北部地区連盟、西日本新聞社後援所の福岡ウイングスが福岡地区第一代表として15年ぶり3度目の出場。1、2回戦を接戦で制し、準々決勝では中野リトルシニア（長野）に0-4で敗れたが、過去最高の8強入りを果たした。大会は中学硬式野球5団体の代表32チームがトーナメント形式で優勝を争った。



2回戦を勝利し、3年生17人で記念写真に納まる福岡ウイングス＝東京都世田谷区・駒沢オリンピック公園総合運動場硬式野球場

福岡ウイングス 初全国8強

3年生17人一丸 接戦制す

最後まで粘り強く戦い抜いた。0-4で迎えた準々決勝最終七回、福岡ウイングスは1死から一塁の好機をつくる。8番小谷達彦（片江中3年）が右飛、9番中村琉太郎（梅林中3年）は一死に倒れ、幕切れを迎えた。3年生17人が悔し涙を流す。太田賢一監督（城南中3年）はこの17人で優勝したかった。流れがつかぬ、ミスも重なって悔しい言葉を絞り出した。準々決勝は再三得点圏に走者を置きながら、中野リトルシニアにしのがれた。藤崎俊之監督は「今日はいつもの爆発力が足りなかったけれど、よくここまで頑張ってくれた。2勝を挙げ、初の全国8強進出を果たした選手たちをたたえた。エース阿蘇晃生（長丘中3年）を中心とした投手陣が快進撃を

支えた。うるまボーイズ（沖縄）との1回戦では先発阿蘇が躍動。「今日は真つすぐの調子がいい」と、打たせて取る投球で5回終りを無失点に抑える好投で流れをつくり、2-1で競り勝った。富士見リトルシニア（埼玉）との2回戦。0-0の6回、先頭2番西田伸治郎（筑紫中3年）が「絶対要になる」と気合を込めた一振りで、中越三塁打。両手を高く突き上げて喜んだ。1死となつて4番三好湧真（長丘中3年）が4球目にスクイズを成功。1回戦は打順を5番に下げられていたが、大仕事をやってのけた。



1回戦で5回を投げて無失点の福岡ウイングスのエース阿蘇晃生＝埼玉県川口市営球場

との「ベットのボットのふたを競る」馬鹿のむちで打ち返す。自主練習が奏功。1回戦も1打点1得点と全得点に絡んだ。守っては四回途中から阿蘇が登場。先発馬場寛（城南中3年）から継投し粘投。六回1死から

初安打を許したが、後続を断つた。最終七回はギアを一段上げ、三番八退で締めて雲封リレーを達成。笑顔でガッツポーズをつくり、仲間とクラブタッチした。チーム初の快挙に貢献した阿蘇はプロ野球日本ハムの新庄剛志監督と同じ小中学校。「尊敬できる大先輩です。もっと技術を磨いてできればプロに就きたい」。大きな目標を口にした。



②2回戦の6回、中越三塁打を放ち、両手を突き上げる福岡ウイングスの西田伸治郎
③6回1死三塁、先制スクイズを決める福岡ウイングスの三好湧真



フレッシュリーグ 通信

▽1回戦
うるまボーイズ
00000011
1000010X21
福岡ウイングス
(三) 仲田、玉城、奥儀 (福)
阿蘇、馬場、井上、尾崎
▽三塁打 西田 (福)

▽2回戦
富士見リトルシニア
00000000
0000001X10
福岡ウイングス
(富) 市場、小泉、松尾 (福)
馬場、阿蘇、尾崎
▽三塁打 西田 (福)

▽準々決勝
中野リトルシニア
00000000
00000000
04
福岡ウイングス
(中) 川、小淵、小玉 (福)
井上、若松、尾崎、尾崎、三好
▽三塁打 三好 (福)

ウイングス福岡市表敬訪問

ジャイアンツカップを前に、福岡ウイングスの藤崎俊之監督をはじめ3年生17人たちが7月

31日、福岡市役所を訪れ、15年ぶり3度目の出場を報告した。中村英一副市長は「練習に打ち

込める環境を決して忘れず、活躍して結果を残されることを楽しみにしています。頑張ってください」と激励。大会の目標を問われ、三好湧真（長丘中3年）は「出場を決めた予選ブロック

の優勝を自信にして全国制覇を目指したい」と答えた。暑さ対策に、藤崎監督は「給水をこまめに、選手はもちろんスタッフの体調も十分に管理していかないといけない」と強調した。



決勝・東京ドームを目指して全力で戦いましたが、惜しくも届かず。しかしながら、

- ・川口市営球場
- ・駒沢オリンピック公園野球場
- ・大田スタジアム

といった素晴らしい球場でプレーできたことは、選手たちにとって非常に貴重な経験となりました。ご支援、誠にありがとうございました。



第19回全日本中学野球選手権大会
ジャイアンツカップ

